

授業科目名： 発達障害の判定とその教育的対応Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 西永堅 担当形態： 単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身に障害のある幼児・児童又は生徒の心理・生理及び病理に関する科目</li> <li>・心身に障害のある幼児・児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：発達)</li> </ul>		
「学位授与の方針」との関係			
<p>DP2. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる (専門知)</p> <p>DP4. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる (実践力)</p>			
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 通級による指導及び特別支援学級における特別の教育課程の編成の意義を含むインクルーシブ教育について理解する。</li> <li>2. LD等発達障害 (LD、ADHD、自閉スペクトラム症、知的障害等) の定義と心理・生理・病理について説明できる。</li> <li>3. LD等発達障害の判定のためのアセスメントはどのように行うのか、その具体的方法を説明できる。</li> <li>4. LD等発達障害のある子どもへの指導法について、具体的方法を説明できる。</li> <li>5. LD等発達障害への教育的対応について、特別の教育課程の編成、個別の指導計画、各教科等の授業づくりと授業改善の視点から具体的方法を説明できる。</li> </ol> <p>特別支援教育の発展に伴い、新たにその対象に加えられるようになった「学習障害 (LD)」を中心に、判定方法とその教育的対応の具体的な方法を学習することを目的とする。</p> <p>学習障害 (LD) とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」等の学力の習得と使用に著しい困難を有する者を指し、文部科学省の調査によれば、ADHD (注意欠陥/多動性障害)、高機能自閉症等と合わせると学齢児の8%以上存在することが報告されている。</p> <p>これらの子どもの適切な教育のためには、その判定の方法が確立していなければならず、またその判定技能を身に付けることが必要である。学力に遅れが見られる児童生徒について、特に算数・数学、国語の学力を精査し、LDの疑いがあれば、医学的な検査を専門医に依頼するとともに、各種の心理検査を実施し、その結果に基づいて適切な教育的対応を行う必要がある。</p> <p>本授業は、一般的発達検査、知能検査、社会生活能力検査とともに、WISC-IV、K-ABC II等LD等の判定に必要な心理検査の実技を身に付けるとともに、学校等における教育的対応について学ぶことを目的・ねらいとするものである</p>			
授業の概要			
<p>さまざまな発達障害の定義と心理・生理・病理について学ぶ。また、それらの障害を判定するためのアセスメント方法を実際に学修していく。本授業はスクーリングのみの授業である。なお、発達障害の判定とその教育的対応はスクーリングのみの科目であるが、(Ⅰ)と(Ⅱ)に分かれており、(Ⅰ)では各発達障害の定義とその教育的対応、心理検査の歴史と、心理検査の方法を学ぶ。(Ⅰ)と(Ⅱ)を連続して受講することが望ましい。</p>			
授業計画			
<p>第1回：インクルーシブ教育とは (通級による指導及び特別支援学級における特別の教育課程の編成の意義を含む)</p> <p>第2回：発達障害とは (心理・生理・病理、それらの相互作用、二次的な障害を含む)</p> <p>第3回：心理検査・知能検査の歴史、心理アセスメント</p> <p>第4回：LDの定義、LDの心理・生理・病理の特性の理解とアセスメント</p> <p>第5回：LDがある子どもへの指導法 (ICT及び教材・教具の活用、学習環境の整備を含む)</p> <p>第6回：ADHDの定義、ADHDの心理・生理・病理の特性の理解とアセスメント</p> <p>第7回：ADHDがある子どもへの指導法 (ICT及び教材教具の活用、学習環境の整備を含む)</p> <p>第8回：自閉スペクトラム症の定義、自閉スペクトラム症の心理・生理・病理の特性の理解とアセスメント</p> <p>第9回：自閉スペクトラム症である子どもへの指導法 (ICT及び教材教具の活用、学習環境の整備を含む)</p> <p>第10回：知的障害の定義、知的障害の心理・生理・病理の特性の理解とアセスメント</p> <p>第11回：知的障害がある子どもへの指導法 (ICT及び教材教具の活用、学習環境の整備を含む)</p> <p>第12回：LD等発達障害への教育的対応① (特別の教育課程の編成方法とカリキュラム・マネジメント)</p> <p>第13回：LD等発達障害への教育的対応② (自立活動における個別の指導計画の作成)</p> <p>第14回：LD等発達障害への教育的対応③ (自立活動の指導との関連を踏まえた各教科等の授業づくりと授業改善)</p> <p>第15回：LD等発達障害への教育的対応④ (特別支援学校のセンター機能としての役割の理解、家庭や医療、福祉及び労働機関との連携)</p> <p>科目修得試験</p>			
スクーリングでの学修			
本科目は、すべてスクーリングで行う			
テキスト			
<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 安住 ゆう子 編著 (2019) 『改定新版子どもの発達が気になるときに読む 心理検査入門：特性にあわせた支援のために』合同出版 ISBNコード：9784772613835</li> <li>(2) 文部科学省 (平成29年) 『特別支援学校幼稚部教育要領・特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』海文堂出版 ISBNコード：978-4303124243</li> <li>(3) 本講義で配布する資料</li> </ol>			
参考書・参考資料等			
<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 山口薫 (2011) 『新訂親と教師のためのLD相談室』中央法規 ISBNコード：9784805835487</li> <li>(2) 山口薫 (編集)・西永 堅 (編集) (2010) 『新訂学習障害・学習困難の判定と支援教育』文教資料協会 ISBNコード：9784938649272</li> <li>(3) 平成29・30・31年改訂学習指導要領 (本文、解説) <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm</a></li> <li>(4) 特別支援学校学習指導要領等 (平成29年4月公示・平成31年2月公示) <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm</a></li> </ol>			
学生に対する評価			
スクーリング評価 (50%)、科目修得試験 (50%)			